

「立ち上がる農山漁村」有識者会議（第1回）議事録

林座長 それでは、ただいまから平成18年度第1回「『立ち上がる農山漁村』有識者会議」を開催いたします。

どうも本当にお忙しい中、総理、官房長官、御出席いただきましてありがとうございました。改めて事例代表の方の御紹介をいたしますが、一番は北海道からいらしたヒルトップファームの山北さん。

続きまして、千葉の生産者連合デコポンの佐藤さん。

3番目は、鳥根の桑茶生産組合の古野さん。

それでは、先ほどお話しできなかったことを1～2分でお話しいただけますか。

山北さんからお願いします。

山北氏 当社は、平成6年から異業種参入ということで、もともと母体が建設業、北海道のせたな町というところで小さい会社ながらやっている会社なんですけれども、地域の方に生き残りをかけまして、何かないかということで、地場の基幹産業であります一次産業に目を向けました。北海道は道南地方になるんですけれども、綿羊を飼っている農家さんがいないということで、羊の方ならまだまだ事業としてやっていけるのではないかということで、また遊休農地が結構ありまして、その再利用を踏まえて、一応農業の方に参入しようということで、羊をスタートさせたのがきっかけです。

現在、飼育頭数が400頭ちょっとぐらいまでいるんですけれども、道内はホテルさんとかに卸していただいてお付き合いしていただいたり、今回、有識者のメンバーであります三國さんのところのレストランにもお取り引きしていただいたりとか、安心・安全な食肉生産を心がけて一応頑張っているつもりですので、よろしく願いいたします。

林座長 ありがとうございました。

それでは、佐藤さんお願いします。

佐藤氏 当社は千葉県成田空港の近くで業務を行っております。その位置を利用して、香港、シンガポールにお住まいの日本人及び外国人の家庭に、安心・安全な生で食べられるお野菜を送ってくれないかと言われたことが、この事業を始めるきっかけでした。12年前から香港を始め今はシンガポールへもお届けをしております。

現在、この宅配事業からもっと量が売れるようにしようということで、海外のデパートとか業務用の分野もやっております。この3月にはロンドンへテスト輸出をしました。これは千葉県の支援事業で実施しましたが、今後はEUに販路を拡大しようとして現在進めております。

なお、外国には日本人の方が大勢住んでおり、その子どもたちが現地で日本人学校に通っています。子どもたちは日本の生活をしていないので、日本のお野菜というものがどういうものかわからないので、私どものお野菜を保育園とか幼稚園に送りまして、これがゴボウだよ、これがナスだよと現物を見せて説明をしました。実は子どもたちだけでなくお母さん方もよくわかりません。こんなことがありました。ゴボウを送りましたら木の枝が入っていたと連絡をよこした方がいまし

た。それは日本人の若いお母さんでした。

このように食育にも一役買おうということで、今、一生懸命取り組んでおります。今後ともよろしく願いいたします。

林座長 ありがとうございます。

それでは、古野さんお願いします。

古野氏 私どもは桜江町という鳥根県の江津市でございますけれども、平成8年に福岡から移転しまして、当時養蚕で桑が既にだめになっておりましたのを、何とか桑畑を再生しようということで、平成10年に組合を立ち上げまして、それで用途開発、その他を進めているうちに、何とかお茶とか、桑の実の食材への切り口を変更することによりまして、大体25ヘクタールほどの桑園の再生が全てでき上がったということでございます。

これからは、栽培から加工、販売という一括したラインで、中山間地農業の戦略としては、これが一番再生には近道ではないかということでやってきております。

そういうことでございますので、今後ともよろしく願いいたします。

林座長 ありがとうございます。お手元にあります団扇は、馬路村で作られたものです。このままここに120円切手を張って、ここに内容を書いて送っていただくと、葉書の代わりになります。2日前に「立ち上がる農山漁村」のシンポジウムで参加者の皆さんにお配りしました。

内閣総理大臣 馬路村はどこにあるの。

林座長 高知県です。

それでは、恐れ入りますけれども、総理からご挨拶をいただきまして、始めたいと思います。

内閣総理大臣 今日は皆さん、お忙しいところありがとうございます。農業に関係ない方が農業に取り組みまれて、意欲的にやっている姿を見て、大変心強く思っています。

農村、山村、漁村は食料を支えているところだけではなくて、日本の文化にとっても大事だと思います。

最近では、攻めの農業を考えなければいけないというのも、農水省もようやく輸入は阻止すればいいんじゃないと、食料も輸出できると、またしようという意欲を持っているんだと思います。

日本の農産物はおいしいですし、健康にもいいし、安全にもほかの国に比べて十分配慮がなされているがゆえに、外国では高く売れています。安く競争するんだったら中国にかなわないと思います。しかしながら、今、中国では、1粒300円の日本のイチゴが売れている。1個100円、200円じゃない、2,000円のリンゴが北京で売られている。鳥根県のコシヒカリが台湾で、台湾の米よりもはるかに高くても売れている。

だから、農業は輸入を阻止するのではなくて、意欲があれば、いいものを出せば高い物を買う、そういうのに取り組んでいる方もおられるわけですから、これからも安ければ安いほどいいというのも確かにあります。同時に、おいしいならば高くてもいいと、それをどうやって展開していくか。食育も同じであります。健康の基本は食生活ですから、今後、地域の発展と健康のためにも皆さん大いに頑張って、また、いい有識者の方々が見えておりますから、お知恵を借りながら日本が元気になる、そして農産物を輸出できるように、おいしい農産物を食べて健康になろうと、そういう会

にさせていただきたいと思います。私としてもできることはやっていきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

林座長 ありがとうございます。

それでは、この後、総理は御公務があり、安倍長官は定例記者会見がありますので、ここで御退席されます。どうも本当にありがとうございました。

(内閣総理大臣、内閣官房長官退室)

林座長 それでは、この後、プレスの方が退室されますので、少しお待ちいただけますでしょうか。

(報道関係者退室)

林座長 それでは、議事を始めさせていただきたいと思います。本当にお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございました。

「立ち上がる農山漁村」は、先ほど総理もおっしゃってありましたように、経営感覚を持って地域自ら考え、行動する先駆的な取組によって地域を元気にしている、そういう事例を選定してまいりました。

平成16年から、もう丸2年以上経って3年目に入っていますが、過去2年間で60、一年に30ずつの先駆的事例をこれまで表彰させていただき、なおかつその後シンポジウムを行い、政府広報を通じたPRなどを行ってまいりました。

今年の3月には、こうした活動から得た知見を提言としてとりまとめ、4月4日の食料・農業・農村政策推進本部で総理に報告いたしました。提言では、自ら考え行動すること、創意工夫、再挑戦の機会の確保を通じ、地域が競い合うことによって農山漁村全体が活性化することをポイントとしておりますので、今年度もこの提言に基づき「立ち上がる農山漁村」の活動を進めてもらいたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」と声あり)

林座長 それでは意見交換に移りたいと思いますが、中馬大臣、本日おいでの3人のお話を聞かれて何か御感想はございますか。

地域再生担当大臣 今日は、いい事例を御紹介いただきまして、本当にどうもありがとうございました。

私も地域再生を担当している大臣でございますが、地域再生または特区という形で、今までの法律あるいはいろんな規制を自分のところだけでも外してくれたら、これだけのことをやれるといった申請がありましたところを我々も精査しまして、各省庁と話を付けて、そしてそれを実行に移させております。これはまだまだ広がっておりませんが、理解して出してきたところは非常に面白いのがたくさん出てきております。

非常に普及しましたのが、いわゆるどぶろく特区です。これは遠野から始まりましたけれども、今では63か所やっております、これを全国に広げろという話もあるんですけども、そうしたら特色がなくなってしまうから、限定してくれという話でもございますが、そうしたことがございます。

今日の事例にもありましたが、株式会社への農業参入は案外土建業者の方々が多いんです。それは成功しています。これは重機を持っていますから、いろんな耕地改造、休耕田になっていたところを一体化してやるとか、ただ公共投資をくれというわけではなくて、自分たちがそのようなアイデアを出して地域の中で、土建業から農業に参入されたところは、かなり成功しているところがあります。

それから、脱サラで、農業で大変成功された例も宮崎県で見えてまいりました。そのように株式会社の参入を認めることによって、かなりの活性化も出てきているかと思います。農家の民宿における簡易な消防用設備、これも全国展開することになりました。地域再生では、地域と地方の大学、企業が連携して農業や加工食品等の地場産業、そこに大学をかますことによりまして、これは山梨などでかなり成功してきております。

空き校舎を転用して農林水産物の加工施設の整備とか、地域のおばさん連中が一生懸命やっている姿を見てまいりましたが、こういう形で、今までの法律や規制にとらわれずに、もっとやる意欲のあるところには、それを認めることが今後の大きな展開になってくるんじゃないかと思っています。

林座長 ありがとうございます。

それでは、引き続きまして、金子大臣政務官、感想がございましたら、お願いします。

農林水産大臣政務官 代表の方には、本当に遠方から来ていただき、発表いただきましてありがとうございました。

農山漁村の活性化というのは非常に重要で、それもいろんな形があると思うんです。まさに今日来られた三代表のやっていらっしゃるということというのは、いろんな農業に対する取組があるという代表的な事例だと思いますので、是非、今後とも頑張ってくださいと思いますし、また、今年4月の食料・農業・農村政策推進本部で決定いたしました、21世紀新農政2006においても「立ち上がる農山漁村」有識者会議の提言を踏まえて、政府が一体となって自ら考え行動する、農山漁村の活性化を一層推進するということになっております。

農林水産省といたしましても、本日、事例代表の方々からお伺いいたしましたお話とか、当会議で議論を参考にしながら、今後とも農山漁村における自律的で経営感覚豊かな取組を積極的に支援してまいりたいと思います。頑張ってください。

林座長 ありがとうございます。

それでは、これからいろんなお話をいただきたいと思うんですが、丹羽会長は、先ほどもお話しされましたが山北さんの肉はもう既に食べておられるんですね。

丹羽委員 前のときに御紹介いただいて、中川大臣と一緒に1回試食に行こうというので、三國さんが(前回)ここにおられて、御一緒にホテル・ドウ・ミクニにお邪魔して、味付けもよかったかもしれませんけれども、本当においしかったです。

私も仕事柄見ていまして、日本の農産物の輸出で一番伸びているのは果物なんです。ようやく100億円突破しましたね。その主力はどうもメロンとかトマトとか、非常に甘いものです。東南アジアの人々は、野菜、果物がこんなに甘いというのはほとんど驚きですね。結局、国際競争力を付

けていくために、非常に品質と価格をかけ合わせたものですから、価格は中国に負けますけれども、品質は技術的なものがありますから、なかなか簡単に真似できないでしょうから、そういう意味から言うと、品質、技術でリードしていけば、日本の農産物輸出は、まだまだ金額は小さいですけども期待できます。

野菜も 10% ぐらい伸びて、ようやく 80 億ぐらいになりましたかね。そういう意味から言いますと、結構農産物輸出の中で伸びているものというのは、果物とか野菜、ほかにもいろいろと肉類もありますけれども、一般的に言うと、これからはそのトレンドが、中国あるいは華僑グループの国にももう少し広まるのではないかと思います。

林座長 佐藤さんのデコポンは、永島さんがやっておられる青空市場に出されたことがありますね。今年は松屋の裏でやられるという話も聞いています。

永島委員 11月4日に松屋のところで、銀座の商店街の方たちの協力を得て行きます。あと、11月の後半に中山競馬場の方でもやらせていただくことになりました。ジャパンカップの場外馬券のときです。

林座長 たくさんの方が来ますね。

永島委員 そうですね。去年も6月にやったんですけれども、そういう意味では地域に貢献という形で、家族の方たちが中山競馬場にいろいろ買いに来てという形になるとと思いますので、全国のを農家の人たちが直接売り来るというのをテーマにしていますので、そういう意味では本当に全国の方たちが丸ノ内ということです。

この間、丸ノ内でやったときに、若い人が買い物に来て、アンケートに書いてあったのが、もっと方言が聞きたかったということです。

そういう意味では、日本の頑張っている農村、漁村をもっと真ん中に持ってきていろいろ交流したいと思っています。

林座長 都会に村のにおいとか、懐しさがなくなってしまうからですね。そうかもしれませんね。

永島委員 若い方たちに故郷がないので、そういう意味では、そういうものを欲しているのかなとは思いますが。

丹羽委員 全国特産展みたいなのを各県ごとにいろいろ工夫してやっておられるけれども、失敗される方もありますね。だから、さっきおっしゃるように、地域色をもっと強力に出した方が一般的になると特色がないから、余りアトラクティブではないですね。

永島委員 ただの物産展になってしまうと、ちょっときついなという気はしますね。

丹羽委員 だからデコポンとか、北海道の肉とか、羊とか、そういうのをもっと強烈に訴えた方がいいんじゃないでしょうか。

地域再生担当大臣 研究委員会が、それぞれ郷土の集まりがありますが、そこと連携して、そして山形のもの、福島のものやれば、その人たちがうまく連携すればね、そうすると故郷の方言が聞けますよ。

永島委員 やはり農家の方たちも、自分たちが非常に頑張っていて、例えば少し地域では浮いて

いる存在が先進的に進んでいるということ、自分たちは自信がないけれども、ここに集まってきて、みんな一緒なんだ、みんな頑張っているんだということ非常に自信を持たれて、また今度は横のつながりができているということをよくお話で聞くんです。

林座長 上野駅という停車場ではなくて、永島さんの青空市場に行って故郷のなまりを聞くというのがいいですね。是非まず永島さんのところからやってみようといういいかもしれない。

それから、古野さんの方は桑茶ですが、桑関係はお茶だけではなく、いろんなものを商品開発されているんですけども、これはとても美容にもいいとか、これは白石さんとか、マクドナルドさんには必要ないと思いますけれども、先ほどユズを御馳走になったんですね。

白石委員 はい。

林座長 この産地も、もともと山奥なんです。馬路というぐらいですから。昔は馬しか通れないような、車で行くのも結構大変なんです。ああいうところで採れたものは青果としては出せないんです。先ほど丹羽会長がおっしゃったように、今、果物が非常に伸びているんですけども、青果として出せないのが、四国の文化にこだわって搾ったものだけで勝負して、すごい成功しているんです。

白石委員 余り食卓の中で、例えば焼き魚にかけるといっても消費量が限られていますし、そんなにすっぱいものを今の人たちが嗜好しなくなったんです。ゆずドリンク「ごっくん馬路村」というのは、美容にいいし、飲みやすいし、加工品になると、すぐ手が届くということもあると思いますし、美容、健康、美白とか、そういう付加価値を付けると、ぐっと広がっていってしまうんです。

林座長 そういう意味では、古野さんは桑茶だけではなくて、いろんな商品開発をされていますね。アンさんは、桑は食べたことはありますか。

マクドナルド委員 はい。カナダでは、やはり桑ジャムとか、お茶は余り手に入らないんですけども、桑ジャムは、イチゴほど売れていないでしょうけれどもね。

丹羽委員 サラダドレッシングみたいにしたらいいかなと思います。要するに塩分控え目の方が、結構中高年に多いでしょう。サラダドレッシングになると今度は非常にオイリーで油があって、醤油は塩分が多過ぎる。ユズなんかは自然のものだし、ドレッシングでやると結構いけると思うんです。少し工夫されたらそういうものができますね。

林座長 今村さんは「DASH村」など、あちこちで御活躍されているんですけども、今、山村留学とか漁村留学をやっているところは、全国で120か所あるんですね。今、どこもかなり厳しい状況になってきているんですけども、永島さんは長野県の山村留学を応援されていますね。これからの活性化で、今、何か考えていらっしゃることはありますか。

今村委員 桑の葉の話をして「DASH村」も実は桑の里だったんです。そのときに地元の資源に絶望というか、一回全部やめて、それをもう一度地元の宝物を掘り起こそうという運動をして、言葉もそうなんですけれども、地元の人が成功体験があれば自信を持って、自信を持ったところには人は来るので、これを私はやりたいと思うんです。

すばらしい事例があって、それをどういうふうにして世に知らしめるか。知らしめてなんぼだと思

ので、それがないと先ほどのパンフレットにも、知名度が向上したとか、やはり触れる機会を増やしていかないと、それは成功体験だと思うんです。売上があって、どんどん自信がついて、それで地元が盛り上がる。これを是非ここでやっていきたいと思いました。

林座長 今村さんは、そちらの御専門ですけれども、どうやって知らしめるか、1年30事例で2年で60、今度はまた30、どんどん増えていきますね。そうすると、1つ当たりの面積が小さくなるというか、たくさんなればなるほど、どう知らせるかというのは、工夫が要るような気がするんですけれども、何かいいアイデアはございますか。

今村委員 私は、30とか60の事例があったときに、その地域がどれだけ日本中の人たちに知られているだろうかというちょっとした疑問もあって、実際その声で知名度が上がったり、売上が上がったり、地元の人がどれだけ盛り上がったり、こっちが逆に知りたいと思います。そうして初めて選定だと思うんです。

マクドナルド委員 少し気になってきているのは、もともと気になっていた部分があるんですけれども、やはり農山漁村です。最近はアグリカルチャーばかりになってきているので、これはやはり日本の一次産業の問題を証明しているような気がしていて、やはりもっと山村と漁村からの事例を積極的にと思います。

やはり水産庁でも行って、彼らが持っている書類をもっと乱暴に取り出してくるとか、もっと海とか、日本の国土は、本当は200海里まであるので、もう少しその辺で積極的に漁村と山の方の山村の事例を挙げてくると、もう少し充実してくる部分があるんじゃないかと思います。農はいつでも、みんな無視していても先駆ける事例はどんどん挙がってくると思うんですけれども、もう少し農山漁村というあれだったら、くどいですが、林野とかね。

林座長 おっしゃるとおりですね。実は漁村も選定しているんですけれど。この間、私たち浜田というところに行ってきたんですけれども、なかなかいい感じで、とても魚がおいしいんです。どれぐらい脂が乗っているか、ぱっと瞬間的にはかってお客さんが納得するという、とてもいい試みをやっておられるんです。

丹羽委員 魚介類の調製品というのは輸出の中でかなり大きいんですよ。400億以上です。それで3割ぐらい伸びているんです。だから、魚介類そのものではなくて、生も伸びていますけれども、調製品です。だから多少料理に加工を加えているんです。例えばカマボコとかハンペンとか、そういうような加工を加えた魚介類の調製品が結構伸びているんです。

そういう中には、結構いいものが、米のコシヒカリみたいな、桑茶とか、そういうような感じのものが結構技術的に優れたものが出ているんじゃないかと思うんです。そういうのを応募してもらわないと、なかなかわからないですね。

永島委員 この間、船橋に漁港があるんですが、船団を組んで、はえ縄で漁をしているんです。漁場がディズニーランドの裏なんです。今、東京湾はすごく漁獲高が上がっているんです。

それで、木更津より内側で本格的な漁港というのは船橋しかなくて、今、工場排水や何か非常にきれいになってきたので、もしかしたら東京湾沿岸を賄えるぐらいの漁獲が、この先行けばと漁師さんが話していたんです。あとは、生活排水と、ちょっと砂浜が増えてくると、もっと漁獲が上

がる。あんなに東京湾で魚が取れているとは思わなかったです。

農林水産大臣政務官 水産の方を隠しているわけではなくて、農林水産省としても、今、都市と漁村の交流というのを非常に深めています。例えば千葉で、地元の方がレストランをしてもものすごく繁盛しているし、また高知に行ったらカツオのたたきなんかを実演したり、そういう意味では、まだまだ宣伝不足なのかなと思います。

それから山村で行けば、私はこの前、内子町を見てきたんですけども、あそこにわざわざオランダから訪ねてくるんです。

そういう意味では、まだまだ日本にはそういう材料がいっぱいあると思うので、今、委員からお話があったことについては水産庁にもきちんと伝えますし、是非この場でも、また農林水産省としても農業だけではなくて、林業、水産、山村漁村についても引き続きこれまで以上に努力していきたいと思いますので、御安心いただきたいと思います。

マクドナルド委員 ちょっとおわびをしなければいけないです。偉そうに、私も委員ですから、義務の1つは例を持ってくることですから、自分にも言い聞かせている部分でもあるんですけども、ありがとうございました。

農林水産大臣政務官 しかし、委員が御存じないということは、余り宣伝が行き届いていないのかなというのも反省をしなければいけないと思っています。

林座長 アンさんの方から18年度の候補に是非入れていただきたいですね。

丹羽委員 それから、3年近くになってきたから、前に表彰されたもののフォローというか、引き続き継続して支援していくとか、激励していくということが必要だと思います。

林座長 おっしゃるとおりですね。どういう激励の仕方があるか、多くなればなるほど、先ほど言いましたように大変になってきます。

丹羽委員 うまくいっているかどうか、まず調査というか、レビューをしてみる必要がありますね。表彰しっぱなしとかではなくてね。

林座長 これまで表彰されたところが「立ち上がる農山漁村」サミットか何かをやって、毎年やっていただくとわかるんですけどもね。

丹羽委員 それもいいじゃないですかね。

林座長 白石委員、どうぞ。

白石委員 座長、1点よろしいですか。やはり各年表彰されたところは、一時的には、今、丹羽会長がおっしゃったように、脚光を浴びて人がたくさん来たりという効果は出ていると思うんです。ただ、これを活用して、ほかの農山漁村にいい影響を、うちもこういうふうにやったらいいんだとか、こんなやり方があるんだとか、もっと波及効果を与えていくべきものだと思うんです。

それで、やはりほかの農山漁村がどういうふうを受け止めて、この活用事例をどういうふうに行っているのか、その他大勢というとな変ですけども、余り名乗りを上げてこなかったところが、今、どういう状況にあるのか、そこにどういう課題があって、この事例とどういうふう結び付けてあげたらいいかという別の部分のフォローアップというか、それも併せてやった方がいいと思います。

丹羽委員 サミットはいいじゃないですか。

林座長 当局と御相談させていただきます。

丹羽委員 それは面白いと思いますよ。注目を集める方が、ほかの農家の方にも情報をお渡しすることができますね。

地域再生担当大臣 地域再生の活用の仕方も十分に理解していない市町村は多いですからね。

今村委員 これは極論なんですけれども、最も元気な農山漁村みたいなことを責任持って選んで、それがあつた面、日本のあるべき姿のことで、もっと私は事例を、この中からベストを選びましょうとか、そこを応援していきましょうとか、そこにみんな気持ちを寄せましょうとか、もっとメディアに出しましょうとか、やった方がいいと思うんです。

この事例が、どれだけの日本の人たちが馬路を、馬路は結構食卓にあるから知っているかもしれませんが、まだまだ疑問なところがあつて、その日の夕方のニュースのトップ項目は最も元気な町が選ばれましたとか、非常に難しいですよ。でも、それぐらいのことをやらないと伝わらないんじゃないかと思うんです。

林座長 今、白石委員からお話がありましたように、これは面白いのでうちが盗もうという波及効果を期待したいですね。ただ全部が同じになってしまってもダメで、自分なりの形をうまくモディファイしながら盗んでいただきたいですね。例えば、今村さんがおっしゃったように、馬路なんかは、途中から技術を売るのではなくて、村を売ろうというふうに切り替えています。そういうところは、ほかのところもどんどん盗めるわけです。

今村委員 ロゴとか絵というか、ものすごくうまいですね。

林座長 そういうのをサミットなんかで仲介できたらもっといいんでしょうけれども、是非これは次回のこととして考えてまいりたいと思います。

ほかに、何か御意見はございますか。さっきから黙っておられますが、今日はせっかくおいで頂いた3事例の代表の方からお話いただけますか。総理と官房長官には1~2分しかお話しされる時間がなかったですけども、何か言い忘れたこととかはございますか。どうぞ。

佐藤氏 私どもは、今、個別の宅配から業務用に拡大しております。これは総理の提言、5年倍増計画に沿って、もっと量を売ろうということです。しかし量を売るには、価格を下げなければ売れないのですが、実は輸出については、原油高の問題と、それに伴いコストが非常に上がっているということで、例えばそこにあるお野菜箱1箱も二月に1回ぐらい航空会社からオイルサーチャージャーといいまして、燃料の値段が上がった分を輸送費に強制的に転嫁をさせられています。私たちの状況に関して言えば、そういう面で、もう少し国の輸出に対する支援が必要かなと思います。それがあれば、もっと輸出量も増えていくと思われまふ。

それと、私どもは一昨年の2月にドイツのベルリンで行われたフルーツ見本市にも出展しましたが、先ほど丹羽会長がいましたように、日本の果物が向こうでも伸びております。リンゴとミカン、日本の主要な農産物の果物ですが、実は外国では非常に高い評価を得ております。しかし植物検疫の問題がございまして、どこへ行っても非常に制限があります。

先ほどアンさんが述べられましたように、カナダにはミカンが輸出されていますが、非常に数少ない輸入国でありまして、ほかにはほとんど日本のミカンを輸入する国はありません。それと、総

理は先ほどイチゴが中国に行っているというお話をしましたが、まだイチゴは日本から中国へは輸出されておりません。我々の仲間がハンドキャリーで持っていき、向こうの交易会に出展したところ、中国政府の関係者が日本のイチゴがおいしいなと言ったのを総理はちょっと勘違いなさっているのだと思います。

実は、まだ中国へは、ナシとリンゴ以外は輸出されておりません。それは植物検疫の問題が大きな壁になっているからで、米を始めとした多くの農産物は未だ日本からは出られません。それはヨーロッパでも、同様の問題で中国ほどではないのですが、問題があります。今後、永島委員さんのお力をお借りして、ロンドンに輸出を拡大しようとやっていますが、我々の力ではできない部分ですので、このような問題を国の方で応援していただければ、もっともって我々の事業も伸びていくと感じております。

丹羽委員 検疫は厚労省ですね。

佐藤氏 そうですね。例えばヨーロッパでは水産物の加工品は、ほとんど日本からの輸出は難しい。HACCPの問題とか、厚労省の認可の問題です。我々は農産物なものですので、やや緩いのですが、それでも結構厳しい植物防疫があります。その辺の解決に支援をいただきたいと思います。

丹羽委員 輸入も、今、非常にポジティブリストになりまして、中国のいろんな農産物が入りにくくなっていますね。これはある一定のレベルが必要なんです。業界によって、アフリカのチョコレート原料のココアもすごく厳しい農薬の基準ができて、欧州なんかよりも数段厳しくなっている。そうすると、実質入れられなくなってくるんです。だから、中国へ一旦持って行って、中国で輸入して、粉々にしてから持ってくるというようなことを考えなければいけなくなると、日本にとってマイナスですね。

おっしゃる点は、特に厚労省の農薬のリストを、やはり農水省さんと厚労省で話をしてもらう必要があると思うんです。

厚労省は、きつければ、きついほどいいと思っておられるわけだから、やはりそうではないんですね。

地域再生担当大臣 日本がきついから、相手国もきつくなっているという要素はあるんですか。

佐藤氏 あります。それで、同じ農水省の中で、片方では輸出を促進し、5年で倍増といいながら、同じ農水省の中で、これは出せません、こんなもの向こうが受け付けるわけではないでしょうということで、成田でストップしてしまう。この問題は輸出促進室にも提案し、かなり最近は進んできております。ですけれども、まだまだ世界的に見ますと、日本のミカンを始めとした柑橘類は非常に輸出しにくい農産物かなと思います。産地にはミカンがあふれているわけです。廃棄処分しているような状態です。

それで、ヨーロッパでは、日本のデコポンとか、我々が実際に持って行って食べていただいたら、日本にはこんなにおいしいミカンがあるのかということで、向こうはミカンの本場ですけれども、日本のデコポンは素晴らしいなと褒めていただきました。しかし値段を言ったら、とんでもない、これは売れないとは言っておりました。このような問題はこれから勉強すれば解決できると思います。現に今、香港、シンガポールへ大根が行っているわけですから、こういう論理からすれば、何

とかこれからもやっていけることだと思います。ただ、何度もいいますが検疫の問題は我々にはどうしようもない問題です。

農林水産大臣政務官 今、佐藤さんの方からお話があった件、本当は日ごろから議論されていることなんです。しかし、検疫という非常に難しい問題がありますので、輸出する、輸入する両方あるわけで、そこは日本の高品質でおいしいものを外国に出すと総理も言っている。攻めの農政でございまして、今、言われたように、3,000億の6,000億になるという話もございまして、今、農林水産省の中でも、別に両方でけんかしているわけではないんですが、バランスとか、いろんなこともございまして、今、鋭意前向きにというか、日本にとって景気に関することでもありますので、今、検討させていただいております。

林座長 どうもいいお話をありがとうございました。そろそろ時間が予定の時間に迫って来ますが、皆さん、それ以外にお話はありますか。よろしいですか。

2日前ですけれども、東大の弥生講堂で「立ち上がる農山漁村」のシンポジウムを行いました。そのときに、参加者の皆さんに差し上げたものがこれ（団扇）です。永島さんは、シンポジウムに参加されていまして、何か印象はありましたか。

永島委員 本当にリーダーというか、馬路村でもそうですけれども、農村や漁村の中で、先ほど話した船橋の漁港も大野さんという方が東京湾を表玄関にしようと試みている方なんです。そういう意味では、非常にリーダーというのが、これからいろんな地域で必要になってくる。例えばノースプレインファームと挙がっているんですけれども、興部という日本でも最過疎のところではないかということです。その最過疎で一番の企業になっていければ、過疎の部分でもこれだけのものができるというノースプレインの社長さんや誰かがおっしゃっているんです。そういう意味では、本当に人の力だなと思うことがすごくあります。

もう一つ、日本人でオーストラリア人になってしまった私の友人がいるんですけれども、今、弁護士をやっています。日本でも国産品とストアや何かに行くと小さく出ているけれども、オーストラリアは国産品というシールを大きく張っているんです。最初は、何だと思っていたんですけども、だんだん買う中で国産品というものに意識がいくようになったというんです。オーストラリアの方では国産品運動というのは、オーストラリアの方では非常に強くやって、いろんなものに国産品ということを付けるんですけれども、それはいろいろな問題があるかもしれないけれども、自給率を上げるという中では、非常に国産品、自給食料でもそれをやる考えもあるかと思いました。

林座長 おっしゃるとおりですね。たとえば現在、養蚕農家は1,500戸しか残っておりません。過去5年間で3,000から1,500に減少しましたので、あと5年後にはないんじゃないかというぐらいいひどい状態になっています。

丹羽委員 農産物の農業に対する支援というのは、予算に組み込んでやっているわけですね。国の生命に関わるわけだから、アメリカだっていざとなれば、今もやっていますね。農村に対する直接支援というのはあるわけで、だから、それは経済界としてもそれに対して反対ということはまずないと思います。だから、それは堂々とやったらいいと思うんです。WTOの中で議論したって、全然支援していない国なんて先進国はどこもありません。日本はちょっと遠慮気味だと思います。

林座長 良い話を最後にいただいて、ありがとうございます。それでは、今年も18年度の選定ということで、今月末から選定するための募集を行いたいと思います。よろしいでしょうか。

(「はい」と声あり)

林座長 今回は、ここに提言がございますけれども、地域の創意工夫あるいは再挑戦の機会確保なども踏まえたいということ。

それから、丹羽会長の方からお話がありましたけれども、いろんな形で企業支援、社会貢献をやっておられる、そういう活動も農山漁村で増えてきていますので、協力された企業、大学、NPOに対しても有識者会議として表彰できればと思うんですが、それはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「はい」と声あり)

林座長 それでは、これから募集を開始いたします。選定委員会の開催は、昨年と同様に12月の上旬ごろになります。委員の方々は大変お忙しいと思いますけれども、御都合をこれからお聞きして日程を決めたいと思いますので、どうぞ、よろしく願いいたします。

最後に何かありますでしょうか。よろしいですか。

特にないようでしたら、これで終わりたいと思います。本当に貴重な御意見、御論議いただきありがとうございました。

本日の会合の内容につきましては、この後、私から記者会見を行うことにしておりますので、御了解ください。

それでは、これで終了いたします。どうもありがとうございました。